

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

内容
<p>基本的には舞台に登場していただく児童生徒さん（約30名）を対象としたワークショップを実施します。人数によっては出演しない生徒さんもワークショップに参加していただくことが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none">●シアターゲーム等でウォーミングアップ。声を出して表現すること、体を使って表現すること、グループで話し合っ作品を一緒に創ることを体験してもらいます。●高校生たちが体験した動物たちとの触れ合いや、肥料にして再生するために“動物の骨を砕く”という事がどんな事なのか、どんな気持ちになるのかを出演俳優たちと生徒さん達とのディスカッションを通して想像・体験してもらいます。●公演ラスト近くで、高校生役の俳優から花の鉢（造花）を受け取っていただくシーンに出演してもらいます。●公演当日のリハーサルの際、出演者とバックステージツアーを行います。

タイムスケジュール（標準）
ウォーミングアップのシアターゲーム（10分）/動物に関連するシアターゲーム（15分）/動物に関連するグループトーク（20～30分）/シチュエーションを伝え、グループトークを経た上でピクチャー〈静止画〉作り、発表（20～30分）/全体で動物の殺処分についてのトーク・出演するシーンの説明（15分）

派遣者数
6名

学校における事前指導
ワークショップに参加する児童・生徒さんに「飼っている、または飼ったことのあるペットの写真か絵」をワークショップ当日に持ってきてもらうように事前指導をお願いしています。飼った経験がない人は「これから飼いたいと思っている生き物、想像上の生き物や絶滅した生き物」でも可。名札の代わりに「自分が呼ばれたい名前」をガムテープ等にマジックで人から見えるように書いて、洋服に貼った状態での集合をお願いしています。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

演目
<p>『いのちの花』 原作:向井愛実著「いのちの花」(株式会社 WAVE 出版刊) 瀧 晴巳著「世界でいちばんかなしい花 それは青森の女子高生たちがペット 殺処分ゼロを目指して咲かせた花」(ギャンビット刊) 脚本:畑澤聖悟 演出:齊藤理恵子 美術:阿部一郎 照明:鷺崎純一郎 音楽:寺田鉄生 音響:坂口野花 衣裳:山田靖子 舞台監督:鈴木正昭 制作:田辺素子</p>

派遣者数
出演者:10名 スタッフ:11名 合計21名

タイムスケジュール (標準)					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
時	8時~13時 ※11時過ぎ出演児童リハーサル(授業1コマ分)	13時30分 ~15時10分 (1時間40分)	0分	15時30分~ 16時45分	17時

実施校への協力依頼人員
会場の条件によっては公演当日までにカーテンのない窓を(手の届く範囲で)段ボール等で塞ぐ作業を依頼する場合があります。ピアノがステージ上にあり、袖中に納まらない場合は劇団員と一緒に先生方の手を借りてステージ下におろす作業を依頼する場合があります。会場の床にシートを敷きたいと希望された場合は仕込みの前日までに先生方で敷いていただくようお願いしています。

演目解説

青森県立三本木農業高校。

動物科学科に入学したマナミたちは、糞の匂いにやられながらも家畜たちの世話に励んでいる。実習では飼育しているニワトリを解体、調理し自分たちで食べる。「いただきます」という言葉の意味を改めて考える。

そして入学から1年がすぎた3月中旬、東日本大震災がおきる。

2年生になったある日、見学に訪れた動物愛護センターで、殺処分された動物たちの骨が「ゴミ」として捨てられていることを知る。声を上げることもできずに死んでいった動物たちの「いのち」を再生させようと立ち上がった。

実話をもとに舞台化。疾走する5人の女子高生たちの物語。

「いのちってなんだろう？」

この舞台が、動物殺処分や動物のいのちだけでなく、自分のいのち、ひとのいのち、生きとし生けるものの「いのち」について考えるきっかけになればと思います。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

公演の終盤、高校生たちが殺処分された動物たちの骨を肥料にして育てた「いのちの花」を受け取ってくれるよう客席にむけて話します。そのシーンで出演する児童・生徒たち（約30名）は客席から舞台上に上がり、花を受け取ります。その際に事前ワークショップやリハーサルを経て、「自分だったら高校生たちにどんな言葉をかけるか？」ということ考えた上でセリフにして言ってもらいます。このシーンの終わりに自分に席にもどり、続きを観劇してもらいます。

児童生徒とのふれあい

公演当日のリハーサルの中で（リハ参加者はワークショップに参加した児童生徒さんに限らせていただきます）、ウォーミングアップのシアターゲームを行いワークショップに来ていない俳優たちとも交流します。またバックステージツアーを行い、舞台セットや照明・音響機材の説明をします。また公演終盤、出演する児童生徒たちが客席に戻るタイミングで、俳優たちも一緒に客席に下り、客席の児童生徒たちにも花を受け取ってもらうよう1人1人に声をかけていくシーンがあります。希望により、終演後に出演者1名と感想などを話す機会や搬出手伝いをしながらの俳優・スタッフとの交流の機会を設けます。

